

MailBox

メールボックス

経済同友会出向者からの近況報告 #7



From : 酒井 智史

復興庁 政策調査官

To : 経済同友会

Subject : 東日本大震災からの復興に向けて～東北は食の宝庫～

2017年5月1日に復興庁に着任しました。その前の2年半は、日本航空大阪支店に所属し、旅行会社へのツアー造成（伊丹・関空発のJAL国内線を利用したパッケージ商品）の営業をしていました。

復興庁には、「部」や「課」という単位はありません。「班」という単位で組織され、班ごとに業務に当たります。私は企画班、観光班、企業連携班という三つに属し、それぞれまったく異なる業務をしています。

企画班は与党対応、観光班は東北へのインバウンド誘致、企業連携班は被災地企業の課題解決が、大きなミッションとなっています。特に企業連携班では、被災地企業と支援企業のマッチングの場である「結の場」や、被災地企業と手を取り合った「ハンズオン支援事業」を担当しているため、現地に赴く機会が多くあります。

半年間業務に当たってきた中でさまざまなことを感じていますが、特に思うのは「復興」のゴールが難しいという点です。何をもって、復興は完了したと言えるのか。どこを目指して取り組んでいくのか。そういうことが、とても難しいように思います。

東日本大震災から10年という期限付きでできた復興庁には、プロパーの職員がいません。各省庁や自治体、民間企業からの出向者で成り立っています。バックグラウンドが異なる人間が集まり、復興という重要な業務に当たるため、いろいろと勉強になる毎日を過ごしています。

復興庁は他の省庁と比べて、かなり出張が多い役所です。やはり、復興の現状を自分の目で見て、地元の方々と直接会うことが重要なのだと思います。私はこれまでに、岩手県釜石市、大船渡市、陸前高田市、久慈市、宮城県気仙沼市、南三陸町、石巻市、名取市、

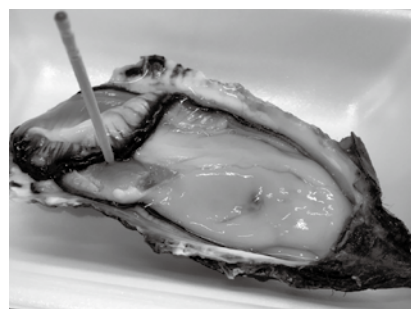
岩沼市、女川町、福島県二本松市など、多くの場所に行きました。

出張に行ってみると、東北は本当に良い場所だなと感じます。特に、おいしいものの宝庫です。1枚目の写真は、気仙沼名物の「モウカの星」です。これはモウカサメの心臓ですが、サメの心臓を食べたことがある方は少ないと思います。酢醤油で食べましたが、とてもおいしかったです。2枚目の写真は、南三陸のカキです。生食ができるカキでしたので、ポン酢をかけて食べたのですが、とてもクリーミーでした。

私自身、復興庁に着任する前は、仙台市以外の東北の都市には行ったことがありませんでした。でも、こちらで仕事をするようになって、東北の魅力にたくさん触れることができました。皆さまもぜひ、東北に足を運び、魅力に触れてみてはいかがでしょうか。



気仙沼名物「モウカの星」



南三陸の生ガキ